



よく遊び、よく遊ぶー 栗山川をこよなく愛す 我ら、永遠のガキ大将

栗 山川が、菜の花の黄色いじゅうたん動き出す何艘かの船が、道の駅やあじさい遊歩道を訪れた人々の視線を集めます。それは、なのはな祭りやあじさい祭りでもお馴染みの遊覧船。道の駅脇の船着場からお客さんに乗せ、栗山川の水面をゆつくり進みながら川と多古町を楽しんでもらう。この船を運営し、操舵し、ガイドするのは『かもちんの会』の皆さんです。

会 の創立は約20年前、昭和63年までさかのぼります。当時、青少年相談員や子ども育成者の任期を終えたメンバーは、退任後も子供たちを巻き込んで何かやりたいと考えて…。『いい歳をした大人が栗山川で遊び、そこへ子供たちも引き込んで、さらに川の環境美化にもつなげよう』と、この会を立ち上げたんだ」と振り返る会員の皆さん。「なぜ川だったか」といえば、一年中遊べる場所だから…。自分たちが覚えた遊びを子供たちへ伝えるには、栗山川は打って付けた」と続けます。ま

かもちんの会 (会長：佐藤嘉直さん)
栗山川を通じた「観光・清掃・青少年育成」を進めるボランティアグループ。会員各々が率先して「遊び」を楽しむ。その団結力と行動力はピカイチ。

た会名の「かもちん」とは魚の名で、雷魚とも呼ばれるカムルチーのこと。「かもちは悪食で何でも喰える魚。悪ガキ親父の集まりにはびつたりの名」と笑います。

発 足当初から、あじさい祭りにドラムの風物詩となった栗山川の灯籠流しを始めたりと、精力的に活動してきた会員の皆さん。その後も、イカダくんだり大会や川干しなどで、子供たちと一緒に楽しみなが、裏方や指導者として大活躍。あじさい祭りの献上米行列では、飯土井橋から会場まで船で米俵を運びますし、万一、栗山川で水難事故が起こった場合も出動します。しかし、自分たちが遊ぶことも決して忘れません。10年前には、会員だけでイカダに乗り込み、飯土井橋の船着場から太平洋まで、栗山川を下ったこともあるそうです。

道 の駅ができる、新たな取り組みが始まりました。大勢の観光客が訪れる光景を目にし「悠々と流れる栗山川。この川を町のために活かさない手はない!!」

と考えた皆さん。あじさい祭りの当日だけ動かしていた遊覧船を、4月初旬から8月14日までの土・日・祝日にも運行し、観光ボランティアとして、船を操作しながら栗山川や町を案内。「船頭をやっていると声が囁かれることも…。でもお客さんと話すのは楽しい」と言い、売り上げは経費を除いて社会福祉協議会に寄付しています。なお乗船客からは、コンクリート護岸がほとんどなく、自然が多く残された栗山川に、驚きの感想が数多く寄せられているそうです。

毎 年6月と8月の中旬には、川の中へ入って清掃作業を。「長い間見かけなかった魚が帰ってきた。最近の水がきれいになった」との声も耳にしますが、まだまだ川にゴミが無くなった訳ではありません。かもちんの会では「郷土の誇り、栗山川をきれいに!!」という思いに賛同いただける、清掃ボランティアを募集中です。「次は何をやるか?」目を輝かせながら話し合う皆さん。その笑顔は、いたずらを考えているときのガキ大将そのままです。

清掃ボランティアの申し込みは大矢美雄さん ☎ 090-2147-7414 まで



あじさい丸のりば
栗山川・かもちんの会



帰り道の小さな探検



今日は、こっから帰ろうヨ!! 小学校からの帰り、時々ほくらは通学路から外れ、田んぼへと続く坂道を下った。郷部と呼ばれる地区を通り抜ける道。ここを歩くと、ほくらは心が弾んだ。なぜなら、いくつもの嬉しい発見や、楽しい体験が待ち受けていたから。道路脇の山に分け入って、小さなサワガニを追いかけ。カエルの合唱を聞きながら、田んぼの際に湧く冷たい水で濡いたのを潤す。土のままの水路をのぞき込むと、足の生えてきたオタマジャクシの大群が。いつもと違う帰り道、道草はほくらの小さな探検だった。